



サステナビリティレポート 2020



ひろがる つながる 笑顔ある 暮らし



Sustainability Report 2020



© やなせたかし

コープあいち 10周年を迎えました

2020年3月21日にコープあちは合併10周年を迎えました。次の10年を迎えるにあたり、あらためてコープあちはメーカー・生産者のみなさん、地域の行政・諸団体とも連携し、みんなの力を寄せ合って、相互理解と寛容の心を広げ、誰一人取り残さない持続可能な世界と日本社会の実現に向け、前へすすんでいきます。

誰かがやるからいいわではなく、一人ひとりがやるのが絶対に大切

2019年4月20日 SDGs講演会

4月20日、組合員と役員を対象にSDGs講演会とディスカッションを行いました。講演では岐阜薬科大学学長の稲垣隆司さんから、一人ひとりが日々の暮らしの中でできることをまずやっていくことの大切さを話されました。参加者のディスカッションでもそのことが共感され、一人ひとりにできる「私のSDGs行動宣言」を交流しました。

講師

稲垣 隆司さん
岐阜薬科大学学長
コープあいち学識顧問
元愛知県副知事



コープあいち副理事長
平光 佐知子

コープあいちが10周年を迎える2020年は、新型コロナウイルス感染症の脅威に始まりました。「ひろがる つながる 笑顔ある暮らし」を2020年ビジョンとして掲げ、地域や行政・メーカー・生産者のみなさんとつながって、愛知県の隅々に「コープで笑顔」が少しずつ広がってきました。新型コロナウイルス感染症は、身体をむしばむのみでなく、世界における経済的な大きな影響を引き起こしました。しかし、これらの解決には、人と人が「おたがいを気遣い合う心」を持って助け合うことの大切さを、あらためて気付かせてくれました。私たちはこれまでも幾多の困難に、やはり「困ったときはおたがいさま」の助け合いの精神で乗り越えてきました。SDGsが掲げる「誰一人取り残さない」は、この精神、そして生協の理念と重なり合っています。この先10年も、その先も、私たちは一人ひとりができることをつなぎあい、知恵を寄せ合い行動する、おたがいに助け合ってみんなの笑顔をつくる、そんなコープあいちでありたいと思います。

編集方針

コープあちは2018年「SDGs行動宣言」に基づいて、またSDGs17ゴールを踏まえて次の10年にめざしたいことを6つの柱にまとめました(右ページ)。この「コープあいちサステナビリティレポート 2020」はこの6つの柱を編集コンセプトにして作成しました。

目次

コープあいち10周年を迎えました／編集方針／目次	P1
私たちがめざしてきたことを、SDGsに沿ってさらにすすめます	P2
消費行動や暮らしのあり方を見直しながら、持続可能な食の循環を発展させます	P3
誰もが健康で心豊かに安心してらせる地域社会づくりをすすめます	P5
飢餓や貧困をなくし、子どもたちを支援する活動を推進します	P10
核兵器廃絶と世界平和の実現をめざし、次世代へ継承します	P11
地球温暖化対策に積極的に取り組み大切な地球を未来の子どもたちへ引継ぎます	P13
Data(事業)	P15
多様な人々の共生、おたがいを理解し合える社会づくりに貢献します	P17

私たちがめざしてきたことを、 SDGsに沿ってさらにすすめます

コープあちは、組合員との絆を大切に、地域とのつながり、行政との連携、メーカー・生産者などさまざまな取引先との連携を“力”にしながら、これまでもSDGsにかかわる課題に取り組んできました。

誰も取り残さないというSDGsのめざすものは、協同組合の理念と重なり合っています。

「一人はみんなのために、みんなは一人のために」の理念を大切に、安心してらせる持続可能な社会の実現に向けて、これからも共に歩んでいきましょう。

(2018年度総代会特別アピール「コープあいちSDGs行動宣言」より)

10年のあゆみを踏まえて、次の10年にめざしたいこと

消費行動や暮らしのあり方を見直しながら、持続可能な食の循環を発展させます

- 「つくる責任」と「つかう責任」の好循環を発展させ、「あいちを食べよう日本の食を大切に!大運動」やエシカル消費などを推進し、生産と消費の笑顔につながる事業・活動をすすめます。
- 誰もが住み慣れた地域で生涯健康に暮らし続けられるよう「おいしく・楽しく・食べよう!!」をテーマに食と健康の取り組みを推進します。

地球温暖化対策に積極的に取り組み大切な地球を未来の子どもたちへ引継ぎます

- 2030年のCO₂排出削減目標に対する具体的な実行プランを作成し、事業と活動を通して子どもたちの笑顔ある暮らしをめざします。
- 「環境方針の4つの柱」にそった実践と、さらなる研究をすすめます。

誰もが健康で心豊かに安心してらせる地域社会づくりをすすめます

- 福祉事業やたすけあいの活動、生活サポート事業を通じて、地域の暮らしに貢献します。
- 事業や活動のインフラを活用し誰一人取り残さず、おたがいを認め合い、助け合える地域の居場所づくりを広げます。
- 行政や地域の諸団体と一緒に活動をすすめます。

飢餓や貧困をなくし、子どもたちを支援する活動を推進します

- 誰一人取り残さない世界をめざして、世界が抱える問題についての理解を深め、助け合いの精神を貫き、ユニセフ活動やさまざまな募金活動等に取り組み、子どもたちを支援します。
- 「貧困」の連鎖をなくしていくために、子どもの貧困について学び、話し合う活動を広げ、フードバンクなどの取り組みをすすめます。

多様な人々の共生、おたがいを理解し合える社会づくりに貢献します

- 老若男女、多様な人々が「おたがいを思いやる」地域社会をめざします。
- 組合員と職員が生き生きとチャレンジできるコープあいちをめざします。

核兵器廃絶と世界平和の実現をめざし、次世代へ継承します

- 「核なき世界」の実現のために、世界の人々と手を携えて、核兵器を廃絶し、平和な社会をめざす取り組みをすすめます。
- 次の世代に被爆・戦争体験を継承します。
- 全国生協のスローガンである「平和とよりよい生活のために」のもと一人ひとりが参加できる活動のあり方をつくりあげます。



SDGsの17番目の目標は「パートナーシップ」です。あらゆる課題を解決するためには、協同の力が不可欠です。

消費行動や暮らしのあり方を見直しながら、持続可能な食の循環を発展させます



身の回りの多くの商品が世界とつながり、暮らしのあり方は世界と地球の姿に密接に影響しています。その現実を踏まえた商品・サービスの提供を心がけています。

- 「つくる責任」と「つかう責任」の好循環を発展させ、「あいちを食べよう日本の食を大切に!大運動」やエシカル消費などを推進し、生産と消費の笑顔がにつながる事業・活動をすすめます。
- 誰もが住み慣れた地域で生涯健康に暮らし続けられるよう「おいしく・楽しく・食べよう!!」をテーマに食と健康の取り組みを推進します。

エシカル消費

ディルマ紅茶スクールバッグ提供支援

2017年、「ワルト株式会社」と「東海コープ事業連合」は、ディルマ紅茶の産地スリランカで「小学校入学児童へのスクールバッグ提供支援プロジェクト」を立ち上げました。ディルマ紅茶全アイテムを対象とし、1品1円を積み立て、スクールバッグ購入資金に活用します。2018年8月1日～2019年7月31日の東海3生協の利用は49,341円の寄付に相当し、84個のスクールバッグを提供しました。



実績 49,341点(84個分)

コープの森づくり

「コープの森づくりマーク」(左マーク)がついた商品の利用1品につき1円を、森づくりをすすめるための苗木代や管理費として活用しています。

沖縄・恩納村漁協サングの植え付け	46万9054円
北海道・野付漁協のお魚を増やす植樹	32万6741円
インドネシア・マングローブ植樹	11万8625円

CO・OP×レッドカップキャンペーン

対象品を1品購入ごとに1円が、国連WFP協会を通じて、カンボジアの子どもたちに学校給食を届ける活動に寄付しています。2019年10月1日～11月10日東海3生協の利用は、464,184円の寄付に相当します。

CO・OPコアノンスマイルスクールプロジェクト

コアノンロール1パックの利用につき1円を、ユニセフを通してアンゴラ共和国の「子どもにやさしい学校」づくりに寄付しています。2018年11月1日～2019年10月31日の東海3生協の利用は、862,244円の寄付に相当します。

コープの洗剤環境寄付キャンペーン

洗剤環境寄付キャンペーンは、対象商品1点の利用につき0.5円をWWFジャパンに寄付。インドネシア西カリマンタン州、持続可能なパーム油の生産などを支援する活動につながります。2019年5月21日～2020年3月20日の東海3生協の利用は287,352円の寄付に相当します。

食と健康の取り組みを推進します

コープあいちの食育

コープあいちでは、これからも食育についての取り組みを旺盛に広げていくため、これまでの活動を振り返り、大切にしたいポイントを「コープあいちの食育の考え方」としてまとめました。

テーマ おいしく 楽しく 食べよう!

大切にしたい視点

- 1 食の安全・安心にかかわる食育**
科学的根拠に基づく情報提供や意見交換の場を通じて、「食を選ぶ力」を身に付けます。
- 2 いくつになっても健康を意識した食育**
食習慣や健康を考えるきっかけとなる場を地域でひろげます。
- 3 未来を担う子どもを中心とした食育**
学習や体験活動を通じて、五感を大切に「食を営む力」を育みます。
- 4 多様な暮らし方に対応した食育**
暮らしの変化に伴う家庭環境の違いなどを認識し、栄養バランスを考えた食育を推進します。
- 5 食の循環・環境を意識した食育**
農体験などを通じて、生産者と組合員の交流をすすめます。また、食品ロス削減や環境に配慮した商品の取り組みを推進します。

コープあいちの食育の考え方……………
コープあいちは、誰もが住み慣れた地域で、生涯健康に暮らし続けられるように協同の事業と活動を通じて、「食を営む力」を大切にします。

組合員とすすめる健康づくり BDHQ※で「食べる」をはかってみよう!

組合員の食習慣の把握や食習慣改善のきっかけづくりを目的としてBDHQを活用したコープあいちオリジナルの学習プログラムを作りました。このプログラムを活用して、2019年9月から取り組み、県内10会場で開催、延べ89人が参加しました。

※BDHQとは自らの健康・食習慣を手軽にチェックする質問票です。



ほこちゃんキッズパーティー



2020年1月25日「ほこちゃんキッズパーティー」を開催しました。18家族にご参加いただき、親子で楽しく食育について学びました。

- 企画概要**
- 私の健康 食習慣チェック活動(BDHQ)
 - 「時短」、「生協オリジナル」をキーワードに選んだコープ商品を試食、商品案内
 - 共済/〈たすけあい〉・〈ずっとあい〉コースの紹介(共済提案)
 - 楽しく「食」について学ぶ(桃乃カナコさんミニコンサート)

稲作交流会

Data 参加者数/1,371人

コープあいちでは愛知県内の4つのJA(あいち海部、あいち豊田、あいち中央、あいち三河)と長野県のJA上伊那で稲作体験を行っています。「田植え体験」は156家族878人、「生き物観察会」は70家族174人、「稲刈り体験」には66家族319人と多くの方が参加しました。当日はみそ汁とご飯を食べながら親子でお米栽培の流れや田んぼで生息する生き物の事、田んぼが環境保全に果たす役割を学びました。



誰もが健康で心豊かに安心してくらす地域社会づくりをすすめます



住みなれたまちで安心してくらしたい。地域福祉の願いに応えるために、コープあいち「協同・たすけあい」を広げる福祉事業や行政と連携した取り組みをすすめています。

- 福祉事業やたすけあいの活動、生活サポート事業を通じて、地域のくらしに貢献します。
- 事業や活動のインフラを活用し誰一人取り残さず、おたがいを認め合い、助け合える地域の居場所づくりを広げます。
- 行政や地域の諸団体と一緒に活動をすすめます。

コープあいちの福祉事業

生協10の基本ケア

高齢者や障がい者が、住みなれた場所で安心してくらし続けられるように生活リハビリを基本とした、「生協10の基本ケア」の学習と実践をすべての介護保険サービス事業ですすめています。

「生協10の基本ケア」の特長は、自立支援により、利用者ご自身の「ふつうの生活」を取り戻し、利用者と家族の生活の質を高めていくことにあります。

生協10の基本ケア

- | | |
|--------------|---------------|
| ① 換気をする | ⑥ 座って会話をする |
| ② 床に足をつけて座る | ⑦ 町内へ外出する |
| ③ トイレに座る | ⑧ 夢中になれることをする |
| ④ あたたかい食事をする | ⑨ ケア会議をする |
| ⑤ 家庭浴に入る | ⑩ ターミナルケアをする |

学習から実践へ

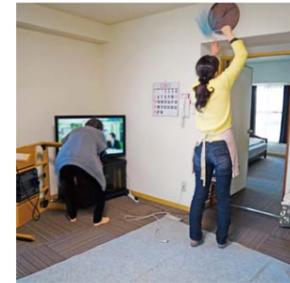
19年度はこれまで職員が学んだことを実践する年と位置づけて、各事業所で具体的な目標を決めました(居宅ではケアプランに取り組みを位置づける。訪問・通所では「換気」「床に足をつけて座る」等)

「生協10の基本ケア」をすべての事業所が同じレベルで実践できるように職員間の情報共有や学習会を行いました。まずよい事例は福祉所長の会議などで事例共有しました。さらに所長だけでなく多くの職員が日々の業務の中から



課題を解決するために、学習会を開催しました。利用者への支援について異なる職種の視点を交えて自立支援に向けたプラン検討会も開催しました。

職員がさらに理解を深めるために、18年度・19年度の2年連続で日本生協連に協力して「生協10の基本ケア講座」をコープあいちで開催しました。これを踏まえ、コープあいち版の「生協10の基本ケア講座」開催の準備をすすめています。



コープあいち生活支援センターなごや Data 延べ利用者数/1,228人

名古屋市の生活支援型訪問サービス※を行っています。高齢による体の衰えから、無理ができなくなっている家事(掃除、調理、買い物代行など)を手伝います。手伝いは生活支援員として研修を受けた組合員が行い、コミュニケーションをとりながら在宅で自立してくらすことを支援します。

※介護保険サービス対象外の高齢者(事業対象者や要支援など比較的軽度な方)に、提供される家事支援サービスです。

くらしたすけあいの会

Data 協力会員数/539人、賛助会員数/382人、
利用会員数/1,132人(2020年3月20日時点)

「くらしたすけあいの会」は病気やけがなどで家事ができないときなどに「困ったときはおたがいさま」の気持ちでお手伝いをする、会員制・非営利の自発的な有償家事援助サービスの会です。身近な地域でたすけあいの輪が広がるよう、組合員と職員が一体となって活動をすすめています。



コープ相談センター・くらしの相談室(生協生活文化会館)

組合員がくらしの中の困りごとを気軽に問い合わせる窓口として「コープ相談センター」を、専門家による相談窓口として「くらしの相談室」を設けています。

コープ相談センター
(2019年度/1,066件の相談)

くらしの中で困ったときやどこに相談すればよいのか分からないときに気軽にお電話をいただく総合的な窓口です。相談内容によって、生協の各事業所・行政機関・地域のくらしたすけあいの会やワーカーズグループなど、適切な窓口の紹介もしています。

くらしの相談室
(2019年度/419件の相談)

法律・税金・家庭内問題・相続・消費者被害など、相談内容をじっくりお聴きし、さまざまな専門家とのつながりも生かしながら、解決の道と一緒に考えます。

専門性の高い法律や税金に関して、毎週木曜日に「税理士面談による税金相談」「弁護士面談による法律相談」を行っています。また、毎週火曜日には「女性総合相談」として、女性のもつ生活の悩み、困りごと、生き方などの相談を行っています。相談には、NPO法人「ウイメンズ・ボイス」に協力していただいています。

見守り協定

Data 協定締結自治体数/35行政(2020年3月時点)

コープあいちでは、市町村と当該地域の事業所が連携し、高齢者の方などが住みなれた地域で安心してくらすまちづくりをめざして、見守り協定を結んでいます。高齢者等地域見

守り協定や、はいかい見守りネットワークを愛知県下35の行政と締結しています。

2市と子育て支援に関する協定を締結

子育てを安心して行える環境づくりや児童虐待防止の推進を目的として、小牧市と「子育て支援にかかわる連携・協力に関する協定」、「児童虐待防止のための見守り活動に関する協定」を締結しました。長久手市とは「長久手市と生活協同組合コープあいちとの子育て支援にかかわる連携・協力に関する協定」を締結しました。

協定に基づいて、児童虐待防止のための見守り活動や子どもたちの食環境を改善するため食育講座の開催、乳児をお持ちの方に食生活に役立つ商品の周知に協力します。



▲長久手市との提携

誰もが健康で心豊かに安心してらせる 地域社会づくりをすすめます



地域や暮らしの要望に沿ったさまざまなサービスを愛知県下に広く提供しています。コープあいちの物流インフラは、単に商品のお届けだけでなく、地域の中で人と人とを結び役割を担っています。

- 事業や活動のインフラを活用し誰一人取り残さず、おたがいを認め合い、助け合える地域の居場所づくりを広げます。
- 行政や地域の諸団体と一緒に活動をすすめます。

コープ宅配事業

Data 利用者数 / 155,487人 (2020年3月3週時点)



14の宅配センターより、愛知県内の隅々へ商品をお届けしています。配達には1人でご利用・2人でご利用・3人以上でご利用・コープステーション等、利用者の状況と要望に沿った方法で行います。

2020年2月にはスマホサイトのリニューアルを行い、利便性を向上させました。10月よりポイントサービスを開始し、楽しんで利用いただける環境をつくりました。

高齢世帯や障がいがある方に対しては、宅配利用料を減免する「シニア割引、生活サポート割引」で応援し、妊娠中の方や1歳未満のお子さんがいる方は「赤ちゃんサポート」で応援します。この制度は、1年間、宅配料を無料化し、子育て情報提供などのサポートを継続的に行うものです。

店舗事業

コープ上八田では惣菜容器をプラスチックから紙容器にしました。▶

持続可能な店舗事業であるために、「くらしによりそいたたかなお店」「地域になくてはならないお店」をめざして改善を続けてきました。コープ商品の価値を伝える取り組みと併せてコープ商品比率を高めました。宅配で人気商品の取り扱いを増やし好評の意見をいただいています。またコープ商品以外の商品でも、地域やコープあいちとなじみの深い商品についてはあらためて品ぞろえを増やすように取り組んでいます。さらに基本となる生鮮食品の品ぞろえと

鮮度を高めてきました。

オリジナル電子マネー「WithCa(ウィズカ)」や二次元バーコード決済サービス「PayPay(ペイペイ)」を使ったキャッシュレス・消費者還元事業に登録し、利用者が5%還元を受けられるようにしました(2020年6月末終了)。CO2削減やプラスチック容器の削減にも取り組みました。



ふれあい便

Data 利用登録者 / 1,682人、1日平均利用者 / 51人 (コープとよあけ店・コープ上社店)

店内で買い物した商品を即日、ご自宅までお届けするサービスです(月～金曜日)。

「帰りに重い荷物を持ち帰ることを考えなくてもよいので楽しく買い物ができるようになりました」との声をいただいています。

地域との連携…「ちゃっと」

「ちゃっと」とは、豊明市で行われているくらしのちょっとした困りごとを、市民どうしでたがいで支え合い、安心してらせるまちづくりをすすめる事業です。(2017年11月よりスタートしました。)

事業は、市の委託で南医療生協とコープあいち、JAあいち尾東の3つの協同組合が協力して実施しています。「ちゃっと」が始まって2年が経過しますが、登録サポーターは266人(2020年2月現在)、月間で延べ200人以上が利用するサービスに成長しています。

市では、毎月「ちゃっと」の定例会議を開催しています。コープあいちも毎月参加しており、おたがいの活動計画や進捗の共有などを行っています。

- *1 コープあいちのくらしすけあいの会の仕組みが「ちゃっと」に多く取り入れられました。
- *2 登録サポーターになるには、市で毎月開かれている2時間の養成講座を受講する必要があります。



▲豊明市おたがいさまセンター「ちゃっと」第1回生活サポーター交流会の様子



モーニングコープ

Data 利用登録者 / 4,200人

牛乳などの乳製品をはじめ、野菜・精肉・パン・惣菜など日常生活を一通り賄える食品類の他「ハイム化粧品」や「鮮魚ボックス」などのこだわり商品を扱っています。週2回、早朝6時半までに注文品をお届けしています。

夕食宅配

Data 利用者 / 3,500人、1日当たりの配食数 / 4,500食

夕食宅配は、お買い物や食事づくりが困難という方のための事業です。毎日違う献立の夕食用のお弁当を週5回(月～金曜日)、冷蔵でお届けしています。商品をお届けした際に、前日のお弁当がそのまま残っているときには、事前に登録いただいた緊急連絡先にお電話を差し上げています。毎日のお弁当配達を通じた利用者の方々とのかわわりを大切にしています。

また、2019年3月より介護食・医療食の取り扱い、2020年4月から冷凍おかずの取り扱いを開始しました。



▲冷凍おかずの例



▲医療食の例

移動店舗車

地元の小売店閉店など、日々の買い物に困る状況が各地でおこっています。移動店舗車は、コープ大高インター店を母店に週に24カ所を回って販売しています。地域の組合員を中心に高

齢者の孤立防止という福祉的視点から、行政や各地域の社会福祉協議会、民生委員のみなさんとも協力して、販売のために立ち寄る時間を生かしてさまざまな取り組みも行っています。

地域との連携…岡崎市千万町町・木下町

過疎と高齢化がすすむ岡崎市千万町町・木下町で地域住民のくらしや「集う場」の活性化にも役立つコープ宅配や取り組みを続けてきました。この地域のお店が閉店し、地域のみなさんは買い物に困っていました。そこで住民の方に週1回の3人以上のご利用を提案しました。すぐにできると考えていましたがそうはなりません。「買い物に困ってなんとかしたい」という方と、「なぜコープあいちなのか」というコープあいちが参加することに難色を示す方で分断されてしまいました。ある住民の方の提案で、「コープあいちが、千万町町・木下町に必要なと感じている私から、地域の方へお知らせ活動をしませう」と地域の方が行う加入のお誘いが始まりました。地域の方がコープあいちのことを伝えて、加入のお誘いをするということは、新鮮で忘れていたことでした。職場の中で、しっかりやろうと一体感が生まれ、行事の日にはカタログやサンプル商品をお渡しして、地域の方に声掛けしていただきました。そして新しい3人以上でご利用するグループができ、スタートしました。

取り組みを始めて3年がたち、最初からかかわった職員が異動することになりました。異動に際して最初

から選んでくださった組合員の方から卒業式の形式で送別会をしていただきました。学生服を着て、卒業証書をいただきました。本当に活動できてよかったと思います。

地域の方の声を聞いて、地域の方とコープあいちと一緒に活動できることが、協同組合としてとても大切だということ学びました。



▲担当した職員の異動時に組合員から卒業式のような送別会をしていただきました。

誰もが健康で心豊かに安心してくらせる 地域社会づくりをすすめます



- 事業や活動のインフラを活用し誰一人取り残さず、おたがいを認め合い、助け合える地域の居場所づくりを広げます。
- 行政や地域の諸団体と一緒に活動をすすめます。

復興支援 福島みらい企画

東日本大震災の復興支援のため、これまで岩手県三陸気仙地域に訪問・応援する企画を継続的に続けてきました。2018年度から新たに福島県の被災地をめぐる「福島みらい企画」を計画し、2019年度は組合員13人(うち家族参加3組)が参加しました。8年たっても被災した当時のまま手つかずの地域があることや、帰還困難区域指定が解除されても戻った人は23%程度となっている地域など、福島の今を目の当たりにすることで継続的な支援の大切さを参加者は再認識しました。



▲被災者との交流 ▲桃の選果場を見学
福島市の北沢又復興公営住宅で被災者と交流し、最終日には伊達市の桃生産者を訪問しました。そこでは契約農家ごとに品種と栽培記録を確認し、放射能検査は1kgのモニタリングをして出荷していることや、大変な努力で風評被害を乗り越えてきた話をお聞きました。
この企画と前後して取り組んだ「福島の桃企画」の利用は前年比105%と増えました。

災害支援

台風15・19号被災地支援



台風15号の影響により被害を受けた方々を支援するために「台風15号千葉県災害義援金」の呼びかけを行い、コープ宅配、店舗にて375万8823円の募金が寄せられました。寄せられた募金は、日本赤十字社を通して被災者へ届けられました。
また台風19号の際には「台風19号緊急災害支援募金」と、長野県・宮城県へ支援のための職員を派遣しました。さらに配達車両の浸水被害が発生したコープながのへ6台の配達トラックを貸し出しました。

寄付金実績 台風15号千葉県災害義援金 3,758,823円 台風19号緊急災害支援募金 31,922,727円

防災の取り組みと防災協定

Data 協定締結自治体/52市町村(2020年3月時点)

発災時、より実践的に対応できるよう、コープあいち、東海コープ共通のBCP(事業継続計画)への見直しと訓練をすすめています。
県内市町村との災害時協力協定締結は、54市町村中52まで広がりました。定期的に行政訪問し、コープあいちの災害時支援活動について相談を行っています。



▲愛知県・豊橋市総合防災訓練 ▲ぼうさいこくたい2019(防災用品の展示) ▲北設楽郡3町村との災害支援協定締結式

飢餓や貧困をなくし、 子どもたちを支援する活動を推進します



- 誰一人取り残さない世界をめざして、世界が抱える問題についての理解を深め、助け合いの精神を貫き、ユニセフ活動やさまざまな募金活動等に取り組み、子どもたちを支援します。
- 「貧困」の連鎖をなくしていくために、子どもの貧困について学び、話し合う活動を広げ、フードバンクなどの取り組みをすすめます。

ユニセフ募金活動…すべての子どもに生きるチャンス

コープあいちでは12月に店舗を中心に「ハンド・イン・ハンド募金活動」や、お年玉募金の協力を呼びかけ、ユニセフを通じて開発途上国の子どもの支援に役立てています。2019年度のテーマは「すべての子どもに生きるチャンス」です。世界には、5歳の誕生日を迎えることなく亡くなる子どもが年間540万人います。これらの子どもたちは、予防接種の普及、安全な水や衛生的な環境の確保、栄養改善などにより救うことができます。

募金活動には中学生や高校生も参加してくれました。金山駅の会場ではコープあいちのWebサイトで取り組みを知った中学生の女の子が「何かボランティア活動がしたくて」と連絡があり、当日お母さんといっしょに参加しました。
2019年度の募金額は219,495円です。



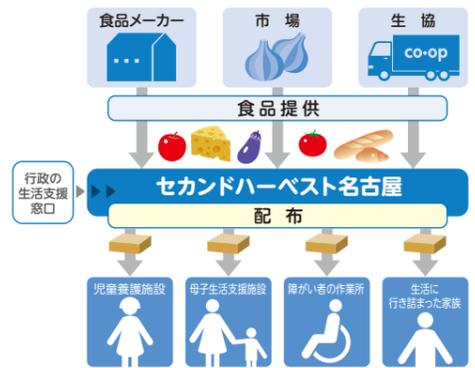
ICAN(アイキャン)

路上生活をおくるフィリピンの子子どもたちが安定した収入を得て生活ができるよう、教育・保健衛生・協同組合づくり等を支援する名古屋市の認定NPO法人。コープあいちは書き損じハガキ回収等の取り組みを通じ、ICANの活動資金づくりに協力しています。
2016年からはICANが主催する「フィリピンの子子どもたちとの交流を目的としたスタディーツアー」には研修のために若い職員を中心に参加しています(2016年~2018年で12人が参加、19年度は新型コロナウイルス感染症の影響で中止)。

フードバンク支援

Data 供給実績/13万5000個(約62.2t)の商品提供(2019年1月~12月)

2015年から賞味期限の残りが少ない食品など、お届け基準を外れて処分せざるを得なくなった商品を認定NPO法人「セカンドハーベスト名古屋」を通じて福祉施設等の団体・個人へお届けしています。
東海コープの物流センターから届けられ、セカンドハーベスト名古屋から団体・個人にお渡しした商品は2019年(1月から12月)実績で約62.2tで、昨年より1.6t増えました。個人へのお届け件数は、2015年は3,972件でしたが、2019年は5,066件と、毎年5%ずつ増えており、できることを続けています。



核兵器廃絶と世界平和の実現をめざし、次世代へ継承します



健康で豊かな生活は、平和であればこそ。コープあいち核兵器も戦争もない安心してらせる社会をめざし、同じ思いのさまざまなみなさんと広く連携し、平和活動に取り組んでいます。

- 「核なき世界」の実現のために、世界の人々と手を携えて、核兵器を廃絶し、平和な社会をめざす取り組みをすすめます。
- 次の世代に被爆・戦争体験を継承します。
- 全国生協のスローガンである「平和とよりよい生活のために」のもと一人ひとりが参加できる活動のあり方をつくりあげます。

2019 ピースアクションinヒロシマ

8月4日から6日の3日間

原爆の日に合わせて「ピースアクションinヒロシマ」に親子2組4名、職員6人の計10人が参加しました。被爆の証言や碑めぐりを通して被爆地でなければ分からない平和への強い思いを共有しました。参加した2人の子どもたちは「子ども平和会議」にも参加し、子どもどうして平和な未来について考え合いました。また、参加した若い職員にとっても平和の尊さを再認識する貴重な経験となりました。



ヒバクシャ国際署名

Data
累計署名数 / 68,338筆

「生きているうちに何としても核兵器のない世界を実現したい」という被爆者の思いに賛同し、ヒバクシャ国際署名に取り組んでいます。コープあいちで累計68,338筆、愛知県全体ではヒバクシャ国際署名を推進する「愛知県民の会」の取り組みを通じて25万筆以上の署名が集まりました。(2020年3月15日集計)



平和のパネル展

8月に各店で展示



この絵は広島の高校生が被爆者の体験を聞き取って描いたもの

平和の尊さ、戦争や核兵器の悲惨さを身近に感じてもらうために、各店舗で原爆被害を描いたパネル展を開催しました。これら

です(広島平和記念資料館所蔵のデータを許可を得て複製)。パネル展を見た組合員の方からは「私たちは平和な時代に生まれあたりまえに生活できることの素晴らしさを思い知らされました」「あらためて原爆の悲劇や無意味さを知りました。あの広島・長崎に落ちた原爆を忘れてはいけません」といった感想が寄せられました。

2019 あいち平和行進

5月31日から6月11日の12日間

平和行進が始まって62年。5月31日から6月11日までの12日間、2019年も愛知県に平和行進がやってきました。コープあいち各地域の実行委員会に参加し、プレ企画を行ったり平和行進を盛り上げるための準備をすすめました。また、組合員の「リレー行進者※」5人、職員31人によるリレー行進で愛知県内をつなぎ、核兵器のない平和な世界を沿道のみなさんに呼びかけました。12日間の行進には延べ7,000人が参加し、沿道募金は約345,000円、ヒバクシャ国際署名は1,950筆の協力をいただきました。

※行進の先頭を立てて盛り上げる組合員のこと。毎年公募しています。



生協の平和活動について

コープあいちでは、持続可能な社会の実現に向けて、身近な地域でのひろがりを目指し、平和活動・国際協力活動をすすめています。これまでの活動を振り返りながら、コープあいちが大切にしたい「平和活動・国際協力活動の考え方」をまとめました。

コープあいちの「平和活動・国際協力活動の考え方」

コープあいち「平和活動・国際協力活動の考え方」を策定し、持続可能な社会の実現に向けて、商品を通じて誰もが参加でき、笑顔ある暮らしを協力の力ですすめます。



平和活動

基本的な考え方

- 核兵器廃絶と世界平和の実現をめざし、次世代へ継承します
- 誰もが笑顔で食事ができる、ふだんの暮らしを大切にします

大切にしたいこと

- 「平和とよりよい生活のために」のスローガンのもと、平和の尊さを学び・伝え、誰もが参加できる地域活動をすすめます
- 募金やカンパ・商品を利用することで支援につながることを知らせ、安心してらせるまちづくり活動に取り組みます

国際協力活動

基本的な考え方

- 飢餓や貧困をなくし、子どもたちへの支援を推進します
- 国際間で寛容と協力の精神を広げ、希望をもてる社会づくりに貢献します

大切にしたいこと

- 誰一人取り残さない世界をめざして、おたがいを認め合い、助け合いの精神で、立場の弱い人々を支援します
- 募金やカンパ・社会的貢献につながるエシカル消費の大切さを伝え、より多くの人々にひろげます

策定のコメント

コープあいちはこの2020年3月で10周年を迎えました。この10年を振り返りますと、争いは絶えず世界中のいたるところで排除や分断が進んでいます。一方国連では、環境活動家のグレタさんや身体を張って人権を訴えたマララさんなど、次世代から今の大人に「きれいな地球を残せ!」「平和な世界をつくれ!」との抗議の叫びが聞こえてきます。このたび、コープあいちとしてこれまでの平和・ユニセフ活動の取り組みを総括し、この10年を節目としてこの先10年20年も平和活動・

国際協力活動が持続可能であるよう、活動をする上での指針となる考え方をまとめました。この考え方のもと、核兵器廃絶と世界平和の実現に向けて、お茶の間から、身近な地域で、商品とのコラボなどで、柔軟な発想で組合員が取り組みやすい活動をみんなで考え合い、行動につなげていきたいと思えます。みんなで力を合わせて、誰も取り残さない平和な世界を一緒につくっていきましょう。

コープあいち副理事長 平光 佐知子

地球温暖化対策に積極的に取り組み 大切な地球を未来の子どもたちへ引継ぎます



「コープあいちの環境方針(2018年策定)」に沿ってすすめています。

- 2030年のCO₂排出削減目標に対する具体的な実行プランを作成し、事業と活動を通して子どもたちの笑顔ある暮らしをめざします。
- 「環境方針4つの柱」に沿った実践と、さらなる研究をすすめます。



▲新「本部棟」に設置した太陽光パネル

コープあいちの環境方針 4つの柱

低炭素社会の実現 CO ₂ など温室効果ガスの排出削減による低炭素社会の実現に取り組みます。再生可能エネルギーの研究をすすめます。	循環型社会の実現 限りある資源を有効活用するために、資源の循環再生利用に取り組みます。
自然との共生社会の実現 自然との共生社会実現に向けて、生物多様性のこと、森や川、海などの自然環境保全を啓発します。	地球にやさしい商品の普及 だれでも気軽に、参加できることとして、「地球にやさしい商品」(環境配慮商品)の普及に取り組みます。

2018年6月、第9回通常総代会で「コープあいちSDGs宣言(特別アピール)」を採択し、協同の力で持続可能な社会の実現に積極的に貢献することを確認し合いました。また同年「コープあいち環境政策・方針」を見直し、長期的な視点から今行動すべきことを確実にすすめるために4つの柱からなる環境方針を定めました。

低炭素社会の実現

◆コープあいち2030年温室効果ガス削減計画(2021年~2030年)

「コープあいち環境政策・方針」を具体化し、全国の生協と共に持続可能な地球環境を実現するために「コープあいち2030年温室効果ガス削減計画」を策定しました。使用エネルギーの削減と再生可能エネルギーの積極的な利用により、事業により排出する温室効果ガスを2030年に2013年度比40%削減することをめざすものです。

2019年度、コープあいちの事業により排出したCO₂は、9,728(CO₂-t)でした※。2019年3月20日時点で、7カ所の宅配センターで太陽光発電施設を運用しており、2019年度は、全体で410,756kWhを発電しました。また、西尾センター、新城センターでは発電した電力を自家消費することで電力購入量を抑え、事業所で発生するCO₂を抑制するとともに災害時の電源確保に備えています。2020年4月竣工の(新)本部棟には100kWの太陽光パネル(自家消費)を設置しました。

※CO₂排出係数は2020年削減計画に基づき、0.423(CO₂・kg/kWh:固定)を使用した数値。

コープあいち2030年温室効果ガス削減計画(イメージ)



CO₂排出量(2019年)

	2018年度		2019年度	
	CO ₂ 排出量	前年比較	CO ₂ 排出量	%
コープ宅配事業	3,987	▲83	4,070	102.1%
店舗事業	5,016	▲206	4,810	95.9%
福祉事業	433	▲16	417	96.3%
本部・生活サービス事業	588	▲157	431	73.3%
合計	10,024	▲296	9,728	97.0%

・使用電力の排出係数は0.423(CO₂・kg/kWh)で計算。
 ・コープ宅配事業には、委託配送によるCO₂排出量を含みます。



自然との共生社会の実現

◆生き物観察会(JAあいち三河)

7月6日岡崎市の田んぼでかかし作りと生き物観察会を行いました。毎年、「あいちを食べよう日本の食を大切に」をテーマに田植え・稲刈りとのセット企画として観察会を行っています。今回の観察会には、100人以上の親子が参加しました。

参加した子どもの声 田んぼがなくなると、生き物も少なくなってしまうので、この自然は大切だと思った。

地球にやさしい商品の普及

◆プラスチック包材の削減

プラスチックごみが紫外線等によって微細化したマイクロプラスチックや、流出包材による海洋生物への被害、さらに焼却時の温室効果ガス発生などプラスチックを取り巻く問題が顕在化する中、組合員の学習会などを通じて課題の共有化を図るとともに、容器包装の見直しをすすめています。

組合員活動交流会 6月12日

テーマ別交流会には組合員、役職員37人が参加し、単にプラスチックを問題視するのではなく、優れた点、問題点を整理して学びました。



パラッと炒めた本格炒飯
植物由来原料を包材の一部(20%)に使用しました。

ラベルのない水(あずみ野)

ペットボトルのラベルフィルムを省いたことで、1ケースあたりのプラスチック使用量を5.16g削減しました。



あらびきウイナー

リニューアルの際、包材のサイズを180mmから170mmに変更し10mm短くしました。

循環型社会の実現

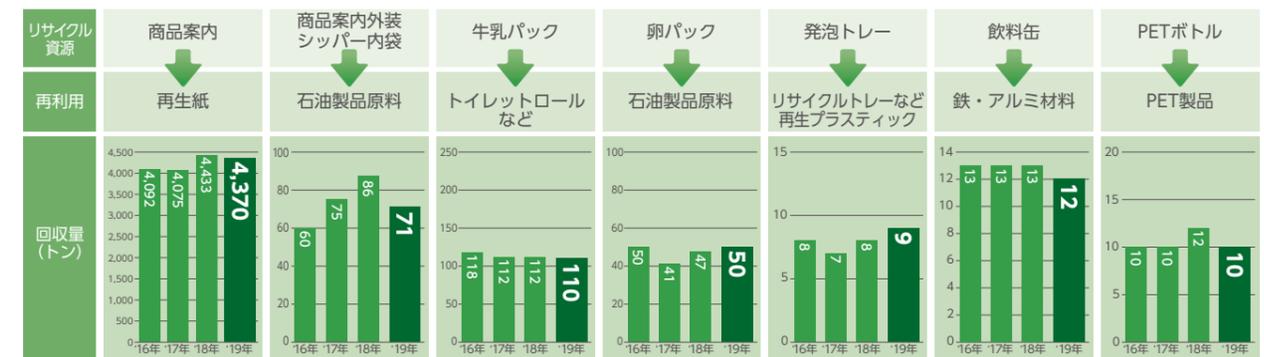
◆食品ロスの削減

店舗では予約注文の呼びかけや、少量パックなど、暮らしに合った量目設定をさらにすすめることで家庭内の食品ロス発生抑制に寄与します。一方、作業工程の中で発生する野菜くずなど、どうしても抑えられない食品残さは、オオブユニティ株式会社、横根バイオガス発電施設(大府市)に委託し、メタン

発酵で発生したガスで発電し、電気エネルギーに変えています。2019年7月から開始し、2020年3月末までに105tをリサイクルしました。2020年度は、年間約150tのリサイクルを予定しています。



◆事業活動でのリサイクル実績



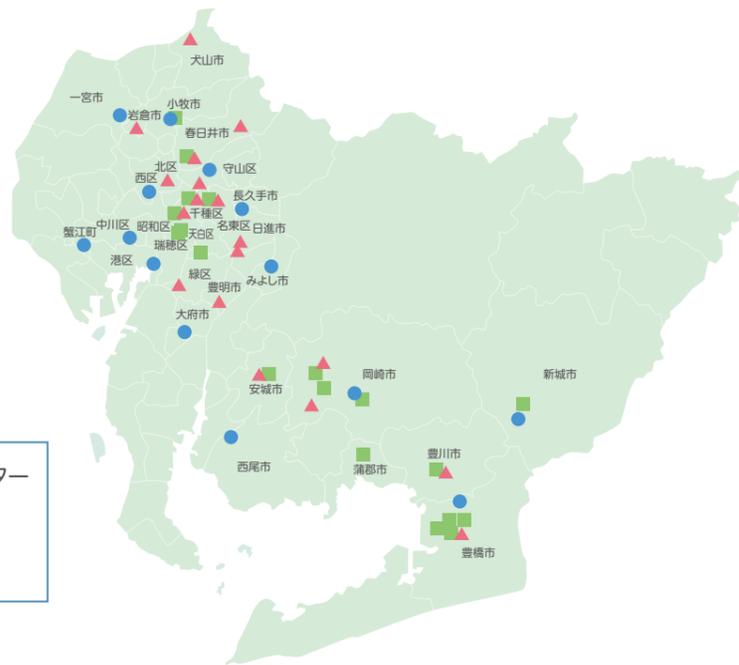
◆事業活動で使用した各エネルギー量と廃棄量の変化

環境保全効果を表す指標(事業活動で取り組んだ効果)		実績値	前年度比較
事業活動に投入した資源	電気(電力使用kWh)	15,257,771	▲396,357
	都市ガス(m)	85,656	▲13,224
	LPガス(m)	8,013	▲575
	ガソリン(リットル)	344,274	21,277
	軽油車両(リットル)	476,933	882
	LPG車両(リットル)	10,352	▲8,423
	水(m)	62,049	▲1,342
事業活動の環境負荷および廃棄物に関する効果	エネルギー消費によるCO ₂ 排出量(t-CO ₂) ※1	9,728	▲296
	一般廃棄物排出量(419t) - バイオガス発電量(105t) = 廃棄量(314t) ※2	314	-
	廃プラスチック排出量(174t) - 資源化量(58t) = 廃棄量(116t)	116	13
	生ゴミ・廃プラスチックの再資源化量(t)	163	▲52

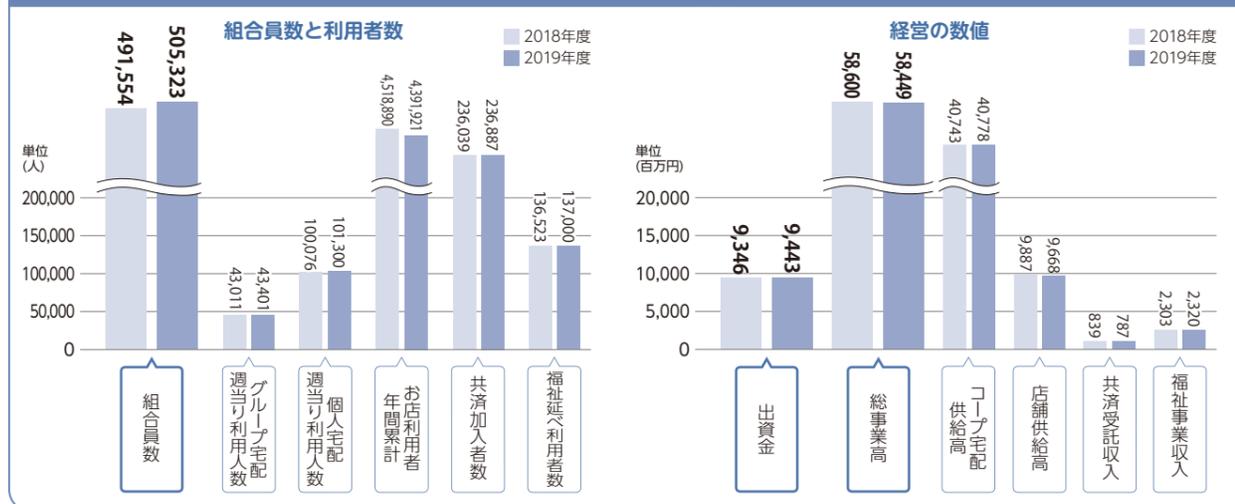
※1・使用電力の排出係数は0.423(CO₂・kg/kWh)で計算。・コープ宅配事業には、委託配送によるCO₂排出量を含みます。
 ※2・対象範囲変更につき前年比較は記載しません。

Data (事業)

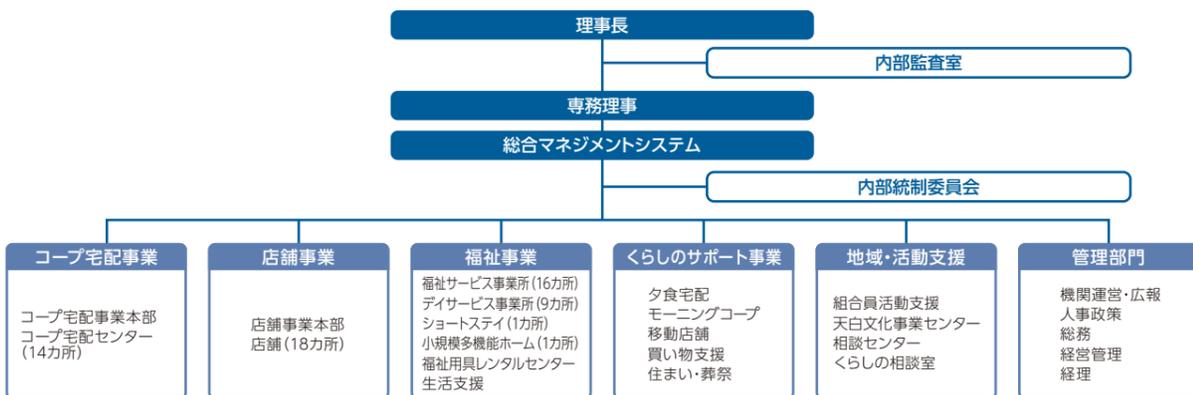
組織概況



コープあいちの概要



2019年度マネジメントシステム管理体制



2019年度内部統制の取り組み

リスク評価に基づき選定した34の重点項目について、リスク低減処置をすすめて業務の効率化と活動の活性化に取り組みました。内部監査では、2019年度、2020年度で全事業所をリスク監査することとし、他事業所の責任者とともに対象事業所の監査を行い、学び合いと関連する規程類への理解を深めました。

主要事業 (概況)

コープ宅配事業

14の宅配センターより、愛知県内のすみずみへ商品をお届けしています。配達には1人利用・2人利用・3人以上利用、コープステーション等利用者の状況と要望に添った方法で行います。食品を中心に毎週4,000品目以上の商品を注文書でご案内し、生活スタイルに合わせ毎週15万人の組合員が利用しています。2019年度の供給高は408億円(前年比100.1%)。新規加入は、31,108人でした。



▲コープ宅配 新城センター

店舗事業

愛知県内に18店舗(尾張エリアに13店舗、三河エリアに5店舗)を展開し、毎日の食生活を支える事業を行っています。2019年度の供給高は約96億円(前年比100.4%)、延べ約439万人の方が来店されました。



▲コープ上社店

福祉事業 / 生活支援事業



県下19カ所の福祉事業所でさまざまなサービスを提供しています。

◀福祉サービス豊川

- 居宅介護支援事業所: 16カ所 / ケアプラン: 延べ32,829人
- 通所介護事業所(デイサービス): 9カ所 / 利用者数: 延べ45,922人
- 短期入所生活介護事業所: 1カ所 / 利用者数: 延べ6,698人
- 小規模多機能事業所: 1カ所 / 利用者数: 延べ283人
- 地域包括支援センター事業所: 3カ所 / ケアプラン: 延べ8,696人
- 訪問介護事業所: 14カ所 / 利用者数: 延べ23,620人
- レンタル・販売利用者: 延べ18,382人

くらしのサポート事業

くらしのサポート事業部は、7つの事業(モーニングコープ、夕食宅配、店舗ふれあい便、移動店舗、葬祭、住まいのコープ、生活サービス事業)を担っています。組合員の「困りごと」に対し、コープあいちすべての事業と連携し、お役立ちすることを目標に2017年度発足しました。

- モーニングコープ利用登録者数 / 4,200人
- 移動店舗車(フレンズ便) 停留所数 / 24カ所
- 夕食宅配利用者数 / 3,500人、1日あたり利用食数4,500食
- ふれあい便登録者数 / 1,682人



共済事業

CO・OP共済《たすけあい》《あいがらす》《ずっとあい》の合計加入件数は236,887件です。

コープ共済は生協組合員が加入できる保障商品です。全国合計で890万人を超える加入者があり、2019年度はコープあいちだけで、3万7002件、18億27万円の共済金をお支払いしました。

※数値は2020年3月現在のものです。

天白文化事業センター



天白文化事業センターでは、文化講座だけでなく、地域のみなさんが気軽に立ち寄ることができる場所となることをめざしています。定期講座46講座(66クラス)の他、ちびっこクッキングやCO・OPスクールなど、幼児から80代まで幅広い方々が利用しています(年間受講者8,300人)。

多様な人々の共生、 おたがいを理解し合える社会づくりに貢献します

5 ジェンダー平等を
実現しよう

8 働きがいも
経済成長も

10 人や国の不平等
をなくそう

17 パートナリシップで
目標を達成しよう

協同組合の理念を大切に、たがいの価値を認め合い尊重し合える職場風土をめぐして就労環境の整備をすすめています。

- 老若男女、多様な人々がおたがいを思いやれる地域社会をめざします。
- 組合員と職員が生き生きとチャレンジできるコープあいちをめざします。

Data 雇用人数 / 66.5人
※法定雇用者数の算出による
[特例子会社の8人を含む] (2019年6月時点)

障がい者雇用

2018年6月に3.58%だった障がい者法定雇用率は2019年6月には3.82%となりました。また、この間、障がい者の未就労職場をなくす取り組みをすすめてきましたが、2019年度は特に職場で継続して働き続けることにこだわりました。



障がい者と共に働きやすい環境づくり(コープとよあけ店での学習会)



コープとよあけ店では、新たに特別支援学校を卒業した男性職員の配属が決まりました。働き始めるにあたり、採用する男性職員の障がい特性を職場のメンバーが理解することで就労後にスムーズに接していけるようにするために、学校の進路指導主事に講師をお願いし学習会を開催しました。今回採用する職員とのコミュニケーションで配慮しなければならない点、指導する際に留意しなければならないことなど具体的にお話しいただき理解を深めることができました。

学習会では店長からも職員に向けて今回の配属をよりよい職場づくりのきっかけにするためのメッセージを伝えました。「『ほめられると大変うれしくなる』ことや『他人に叱責されると落ち込む』ことは誰もが同じです。ハンディのある職員に配慮することでわれわれが日ごろ、忘れかけていた他者への優しさや配慮にあらためて気づき、それがより働きやすい職場づくりにつながればと思います。」

いつまでも生き生きと働くことができる環境づくり **Data** 再雇用人数 / 82人 [定時除く] (2020年3月時点)

【コープいぬやま】 矢島さん

3月20日に70歳定年(再雇用)を迎える職員に、店長から感謝状を授与しました。矢島さんはオイルショックの最中に生協に就職されました。

ご本人のこぼれ

物資が不足した当時、組合員みなさんにどうやって平等に商品を届けるか先輩のみなさんが夜遅くまで論議していた姿、新人でたくさんのお荷物のため配達が遅れたとき組合員さんが次の班に連絡してくれ荷おろしを手伝ってくれた、そのときの体験と感動が46年間生協を続ける原動力となりました。さまざまな体験を重ねて最後、組合員にいちばん近いお店の現場で勤め上げることができよかったです。



家庭と職場のよりよい関係を…

子ども参観日

Data 参加者 / 4家族5人

夏休みを利用して親の働く姿を見たり、仕事を体験することで親子の交流の機会になっています。職場訪問を通じて、子どもたちは親の仕事の大切さと大変さを知りました。



育児休職者のつどい

Data 育児・出産休職者 / 9人、
19年度復職者(時短勤務中) 2人が参加



2020年3月時点で、育児・出産休職、時短勤務を活用している職員は11人です。毎日、育児に奮闘しているママが集合し、おたがいに日々の様子や思っていることなどを交流し、復職のイメージをつかんでいただくようにしました。また、復職した先輩職員も参加し、仕事と家庭の向き合い方など、経験をまじえた話を聞きました。

生産者・メーカーのみなさんとも支え合いながら…

新型コロナウイルス感染拡大の影響で小中学校が休校となり、学校給食用の牛乳が大量に余ってしまいました。生産者を支えるために牛乳の購入を増やすことを組合員に呼びかけました。



2020ビジョンから2030ビジョン持続可能な未来へ…



コープあいち 理事長 森 政広

が崩れると今回のような事態になります。ネットでのマスクの高額販売などにみられるように、「社会の先行きが不透明になる中、消費者は自分に寄り添い、支えてくれる企業やブランドを支持する」(3/10日本経済新聞)など、便利さより信頼を重視する傾向にあるといわれています。コープあいちも引き続き地域のみなさんに信頼される組織として努力を続けていきます。

SDGsの取り組みをさらにすすめます

今回の新型コロナウイルス感染症の拡大は、地球温暖化も要因に考えられています。温暖化の影響で日本も熱帯地域で発生するような感染症が拡大するのではないかとされていました。今回、感染を媒体しているとされるコウモリなど動物も、温暖化で生活エリアが狭くなり、餌を求めて人間の住むエリアに頻繁に入るようになったことも原因ではないかといわれています。(4/10中日新聞)

また、昨年は相次ぐ台風の上陸で東北、関東方面を中心に甚大な被害がありました。一方、年末から暖冬で山間部の積雪が少なく水不足も危惧されています。地球温暖化防止は人類共通の喫緊の課題になっています。そのためにもコープあいちも、この間めざしてきたことをSDGsに沿って組合員、地域のみなさんと一緒に活動をすすめていきます。

今年でコープあいちも創立10年となりました。おかげさまで事業も活動も愛知県全域に広げることができました。この間のみなさんのご協力と支援に感謝いたします。本サステナビリティレポートをお読みいただいたみなさんのご支援ご鞭撻をお願いします。

新型コロナウイルス感染症に対して

20年初頭から新型コロナウイルス感染拡大により、私たちの生活も大きく変わることになりました。コープあいちも組合員、職員の安全と健康を最優先に生活インフラを担う責任を果たし、組合員の暮らしを守るため全力で取り組んできました。3月には学校給食がなくなり、困っている酪農家のみなさんを支援するため組合員へ生協牛乳の利用を呼びかけ、通常より2~3割多い利用をいただき、生産者から感謝の声をいただきました。また、今回の一時的な物不足は今までの物流のあり方や普段の生活について考えるきっかけになったと思います。「生活の無駄を省く」、「コンビニが冷蔵庫代わり」、「在庫を持たない需給管理」などが背景にあり、「いつでも買える」と思ってきたことが一度需給のバランス

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



編集にあたって

●この報告書は、コープあいちの環境、地域社会への貢献、商品やサービスの安全性確保、品質レベルアップ、消費者・組合員へのサポート、労働慣行や人権への配慮など、1年間の活動全体を紹介するものとして編集しました。

報告書の対象範囲

この報告書はコープあいちの全部局・全事業所および委託先関係団体の環境活動・事業活動をまとめたものです。対象期間は2019年3月21日～2020年3月20日までとしています。なお一部範囲を超えた記述も掲載しています。

発行年月

2020年6月。次回は2021年6月の発行予定です。

インターネットでの関連情報の閲覧について [関連情報はこちら](#) [コープあいち 社会的活動報告](#) [検索](#)



©やなせたかし
コープあいちキャラクター
ほこちゃん



〒465-8611 愛知県名古屋市東区猪高町大字上社字井堀25の1
TEL 052-703-6022 FAX 052-703-3387



- 本文には、ユニバーサルデザインの視点に基づいた書体(UDフォント)を使用しています。
- FSC森林認証紙を使用しています。
- 環境に配慮した植物油インキを使用しています。
- 有害物質を含む湿し水を使用しない、水なし印刷方式にて印刷しています。
- 水性のりを使用した「のり綴じ製本」を採用しています。針金を使用しないため、安全性に優れています。